

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

事業所名 児童デイサービスあさひ丸パーク

保護者数(児童数)30 回収数25 割合83%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	24	1	0	0		
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	12	1	0	12	説明がない。	職員構成等について可能な範囲で情報開示していきたいと思います。
	③	障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化が適切になされているか	19	2	0	3	未回答1 入り口前にはスロープがなく、転びやすい。	バリアフリー化を進めるための方法を検討していきます。
適切な 支援の 提供	④	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されているか	20	4	1	0		
	⑤	活動プログラムが固定化されないよう工夫されているか	17	2	1	5	プログラムが示されてらず、分かりにくい。	活動内容についても、事前事後の情報開示に努めます。
	⑥	放課後児童クラブや児童館等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	5	3	3	14	今はコロナ禍で難しいと思う。今後期待する。	交流可能な状況が訪れたら、積極的に行っていきます。
保護者 への 説明等	⑦	利用者負担等の説明や支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	25	0	0	0		
	⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	19	5	1	0	一日の様子を細かく伝えてくれる。	今後も子どもたちの様子をしっかりお伝えしていきます。
	⑨	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	16	6	0	3	面談は参考になった。 家での様子と違うので、もっと助言をしてほしい。	モニタリングをはじめ、相談の機会を増やす努力をしていきます。
	⑩	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	4	7	13	コロナ禍のため、今は希望しない。	実施可能な状況になったら、保護者の皆様同士の交流の機会を設けたいと考えております。
	⑪	子どもや保護者からの相談や申し入れ、苦情について、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	19	0	1	5	要望や意見を聞いてもらった。 迎えの時に話をするが、苦情窓口がない。	重要事項説明について再確認を促し、苦情担当者についても再度紹介していきます。
	⑫	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	18	4	1	2		

	⑬	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	15	2	1	7	インスタグラムのアップ回数を増やしてほしい。	子どもたちの様子を少しでも多く伝えることのできる機会を増やしていきます。
	⑭	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	22	1	0	2		
非常時等の対応	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	18	1	1	5		
	⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	15	1	0	9		
満足度	⑰	子どもは通所を楽しみにしているか	24	1	0	0	ケガなく過ごしてもらえたらと思っている。子どもが楽しみにしていることで、いかに必要な場所かと感じる。	楽しい場所であり続けるための振り返りと努力を続けます。
	⑱	事業所の支援に満足しているか	23	2	0	0	指先トレーニングがありがたい。言語トレーニングを強化してほしい。他者との距離感など、成長を感じる。発語も増えた。	子どもたちの成長の支えとなるよう、さまざまな活動の工夫をしていきます。

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 3年 3月 1日

事業所名 児童デイサービスあさひ丸パーク

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1	0		
	②	職員の配置数は適切である	1	4	1	人数不足を補うための報連相を意識している。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	4	0		バリアフリー化の推進。子どもが見て動けるものを作成する。トイレまでの導線を考え、工夫していく。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している。	4	2	0		
	⑤	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	1	1		
	⑥	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の開放やホームページ等で公開している	0	5	1		
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1	2		
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	0	毎月の定例会議の中で行う。	
適切な支援	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0	0		
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	0	6	0	個別の達成度がわかるものを用意している。	
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	0		
	⑫	活動プログラムが固定化されないよう工夫されている	4	1	1	曜日や時間で内容を変えている。	
	⑬	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成している	4	2	0		

の提供	⑭	支援開始前には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	2	3	1	ホワイトボードで流れがわかるようにしている。	役割も確認できるようにする。
	⑮	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	0	重要事項は記録表にも記載している。	
	⑯	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	0	利用者全員の記録に目を通している。	
	⑰	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	2	0		
関係機関や保護者との連携	⑱	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画している	2	3	1		
	⑲	母子保健やこども・子育て支援等の関係者や学校、関係機関と連携した支援を行っている	2	4	0		
	⑳	就学前に利用していた保育所、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	1	2	3		
	㉑	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供しているか	1	3	2		
	㉒	児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	2	3		
	㉓	放課後児童クラブや児童館との交流、障害のない子どもと活動する機会があるか	0	0	6		
	㉔	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	1	5		
	㉕	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	1	0	連絡帳記載事項以外も伝えるようにしている。	
	㉖	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	1	4	1		
	㉗	運営規定、利用者負担等の説明や、支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている	6	0	0		

保護者への説明責任等	⑳	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	2	4	0		助言ができるよう、知識と経験を増やしていく。
	㉑	父母の会の活動をしたり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	2	4		
	㉒	子どもや保護者からの相談や申し入れ、苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	0		
	㉓	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の除法を子どもや保護者に発信している	3	1	2	Instagramの活用	
	㉔	個人情報の取り扱いに十分注意している	6	0	0		
	㉕	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	1	0		
	㉖	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	3	3		
非常時等の対応	㉗	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練が実施している	6	0	0		
	㉘	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行っている	3	2	1		いつ起きても対応できるようにする。
	㉙	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	0	0	新規利用者を迎える前に、個人ファイルに目を通しておく。	
	㉚	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2	1		
	㉛	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	0	作成した後に声を掛け合い、スタッフの目に留まりやすいようにしている。	
	㉜	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	0		
	㉝	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	3	0		

事業所自己評価のまとめ

事業所名 児童デイサービスあさひ丸パーク

職員による自己評価と保護者による評価の共通点

- ・子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか
- ・利用者負担等の説明や支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか
- ・父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか

相違点

- ・障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化が適切になされているか
- ・活動プログラムが固定化されないよう工夫されているか
- ・定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか
- ・子どもや保護者からの相談や申し入れ、苦情について、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか
- ・緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか

改善点と改善への取り組みを話し合った結果

- ・保護者との認識の相違点の多くは、我々としては取り組んでいたり、工夫していたりすることが、家庭には伝わっていなかったことに起因するものであることが挙げられた。そこで、どのような方法を用いるかということも含め、家庭への情報提供、啓発活動を行っていくことが必要であると考えた。具体的には、インスタグラムの更なる活用や会報の発行、送迎時に保護者に伝えることなどを考えた。
- ・バリアフリー化、助言等の支援については、保護者の方が満足度が高い結果となった。建物の構造を変えることは難しいため、補助板の設置等、自分たちにできることを考えて対策を講じたい。助言については、スタッフの自信のなさに起因するものがあると思われ、さらに研修を充実させ、個別のニーズに対して共通理解をより図ることでスタッフの自覚と自信、自負を高め、対応できるようにしていきたい。
- ・保護者同士の交流や、他施設との交流は、新型コロナウイルス感染拡大の現状では、実施困難であることが、スタッフ保護者共通の認識であった。落ち着くことがあるのか先行き不透明であるが、もしそうになったら積極的に交流機会を設けたい。そうならなくとも、保護者同士、子ども同士をつなげる方法を模索していきたい。